

千葉商工会議所景気動向調査 ……平成28年2月調査結果報告……

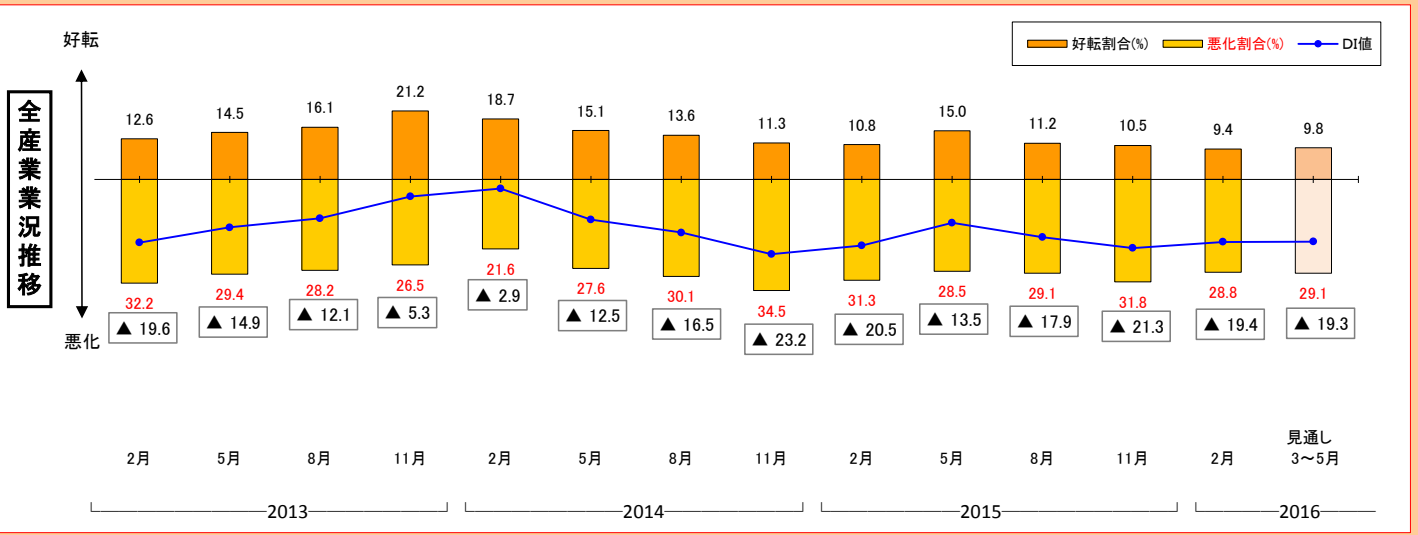
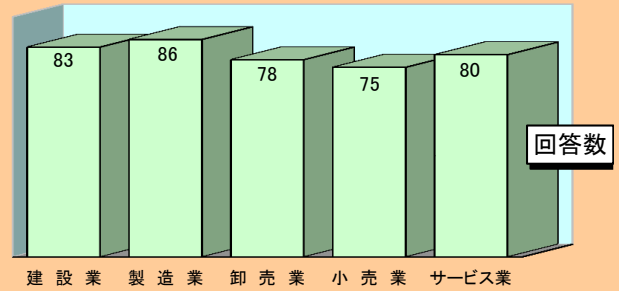
調査期間：平成28年2月15日(月)～2月29日(月)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 402社 回答率 80.4%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成27年11月、以下同じ)と比較して、製造業が下降したものの、サービス業で横ばい、他の3業種が上昇した結果、全産業合計DIは1.9ポイント上昇して▲19.4となり、3期ぶりの改善となった。また、向こう3ヶ月(3月～5月、以下同じ)の先行き見通しは、建設業・製造業で下降する見通しであるものの、他の3業種で上昇する見通しとなっており、全産業合計DIは現状より0.1ポイント上昇の▲19.3となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、建設業で上昇したものの、製造業で横ばい、他の3業種で下降した結果、全産業合計DIは1.6ポイント下降して▲18.1となり、3期連続の悪化となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業で下降する見通しであるものの、他の4業種で上昇する見通しとなっており、全産業合計DIは現状より4.7ポイント上昇の▲13.4となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、サービス業で下降したものの、小売業は横ばい、他の3業種で上昇した結果、全産業合計DIは2.5ポイント上昇して▲17.9となり、2期ぶりの改善となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業・製造業では下降する見通しであるものの、サービス業では横ばい、卸売業・小売業で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より0.3ポイント上昇の▲17.6となっている。

全体を総括すると、業況DIは3期ぶりの改善となったものの、業況が好転・悪化と回答した企業が減り、不変と回答した企業が増えた結果であり、ほぼ横ばいで推移。仕入単価DIも3期連続で改善しているものの、同様に不変と回答している企業が増えている。人手に関しては、不変と回答する企業が7割以上を占め、各業界で人手不足の状況が続いていることが伺える。先行きについては、こうした人手不足の影響や中国経済の減速などで、慎重な見方を崩していない。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは1.1ポイント上昇して▲7.2に、売上DIは9.4ポイント上昇して▲1.2に、採算DIは1.7ポイント上昇して▲13.3となった。業況DIは2期連続、売上DIは3期ぶり、採算DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI・売上DI・採算DI全て現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「人材不足から人件費の増加や外注費の増加を余儀なくされ、採算が合わない」「求人を出しているが、今年は応募が減少。是非人材がほしい」などの声があった。

【調査結果のポイント】業況DIは3期ぶりに改善したものの、ほぼ横ばい。先行き見通しは慎重な見方が続く。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧ください。
<http://www.chiba-cci.or.jp/>

